

氏名	和泉 順子（教授）
こんな研究をしています	情報通信技術は今や社会基盤の一つとして普及発展しています。しかし、時代や社会動向に依存して技術的な開発・設計の方向性、あるいは問題意識や倫理的視点は様変わりします。仮想世界の情報が現実世界に大きな影響を与えるようになった今、情報はどのように保護や制御される必要があるのか、セキュリティや技術標準などの観点から国際社会との連携や協調を含め研究を続けています。
こんな成果を挙げています	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 『DX デジタルトランスフォーメーション事例 100 選 第4章第3節 エストニアの電子政府』, 鈴木 淳一（著, 監修）, エヌ・ティー・エス, 2023.</li> <li>- 和泉 順子, 「エストニアにおける電子政府関連サービスの社会展開に関する調査報告」, 異文化, 2020.</li> <li>- 和泉 順子, 桂田 浩一, 児玉 靖司, 重定 如彦, 滝本 宗宏, 入戸野 健, 山口 和紀 監修, 『情報学基礎』, 培風館, 2020.</li> <li>- 和泉 順子, 櫻井 茂明, 中村 文隆, 『情報システム概論』, サイエンス社, 2018.</li> <li>- 和泉 順子, 「第 20 回 ITS 世界会議参加報告」, 日本ソフトウェア科学会論文誌「コンピュータソフトウェア」, Vol131, No. 2, pp. 33-37, 2014.</li> <li>- M. SATO, M. IZUMI, H. ITO, K. UEHARA, J. MURAI, “Criteria for Privacy and Integrity Protection in Probe Vehicle Systems”, the 2011 ITS World Congress, Oct. 2011.</li> </ul>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	インターネット上を流通する情報として情報通信技術の中でも個人情報やプライバシーに関わる保護技術や技術の研究、また車両の情報化や自動運転にも関わる ITS 分野の研究開発やシステムの普及促進、国際標準化にも携わっており関心を持っています。また、エストニアで在外研究を行ったことから、電子政府とそれを支えるデジタル ID などの基盤技術や、その社会展開に関する調査研究にも携わっています。
こんな授業を行なっています	多文化ネットワーク論 A/B の授業で、知っておくべき計算機科学及びネットワーク技術の用語や基礎を確認します。その上で、関連分野の最新動向技術を紹介しながら、情報科学分野の技術が広く社会で使われるようになるために、どのような準備が必要なのか、何が問題でどのような解決方法が考えられるかを議論します。一方的に提示するのではなく、議論を通じて今何が問題なのか、今後何が必要になるのかを自ら考えるための授業を行ないます。
学会や社会でこんな活動をしています	インターネットに関連する産官学の研究プロジェクト（WIDE）に携わっています。また 2018 年にエストニアのタリン工科大学へ在外研究に行くまでの約 10 年間は日本ソフトウェア科学会の論文編集委員を務めた他、関連する研究会の実行委員・プログラム委員なども携わりました。経済産業省基準認証研究開発事業「プローブ情報システムの匿名性・セキュリティ評価基準などに関する標準化」など、他大学・組織との共同または委託研究で情報技術の国際標準化にも携わった経緯から、技術の国際標準化にも関心を持っています。